



一人一人が安心して自分のよさを発揮できる学校

# 今成小だより



令和6年3月1日発行

## 世界に目を向ける人に

先月のお話集会では、以前私も暮らしたことのあるトルコ共和国での体験をもとに、子どもたちに「エルトゥールル号」についての話を聞いてもらいました。トルコは「文明の十字路」などと言われますが、親日国としてもよく知られています。

今から約130年前、日本は明治時代でした。

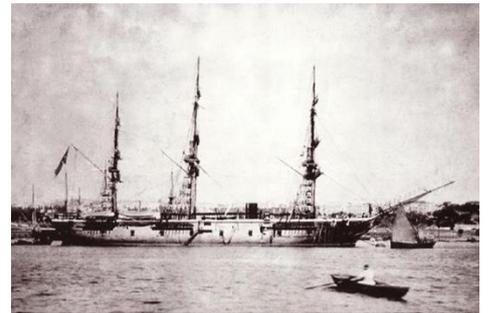
トルコの大きな船、「エルトゥールル号」が日本と親交を深め、仲よくなるためにやって来ました。

行きは順調だったのですが、帰り道に和歌山県沖で大きな台風に遭ってしまいます。ものすごい嵐だったので、エルトゥールル号は沈没してしまいました。残念ながら船に乗っていた587名の方がふるさとから遠く離れた日本で亡くなってしまいました。しかし、大変な嵐の中、大けがをして苦しむトルコの人たちを、大島村の人たちが必死で助けたのでした。その後も、休みも取らずけがの手当をしました。清潔な服に着替えさせ、栄養をつけるための食事を作り、何週間もの間、看病を続けた結果、69人の命が救われました。

実はその当時、村の人々は生活に苦しんでいて、本当は自分たちが食べるのもやっとの状態だったそうです。それにもかかわらず、外国から来た自分たちを救ってくれたことを知って、生存した船員たちは深く感謝をしました。そして、母国に帰り、日本人が行ってくれたことや感謝の気持ちを多くの人々に伝え、やがてこの出来事はトルコの国中に広まっていったそうです。

「トルコでは、エルトゥールル号のことが小学校の教科書に載っています。だから、みんな知っている話。同じアジアの西と東、日本は、昔からの信頼できる友人です。」

トルコを訪れると、今でもこのように話す人と出会うことがあります。



イスタンブールの港に停泊するエルトゥールル号 全長79.2m 艦幅15.1m 2334 t  
<https://www.town.kushimoto.wakayama.jp/kanko/kizuna/turkey.html>  
(和歌山県串本町ホームページより)

本校では、教職員一人一人が学年や学級の子どものたちのよいところ、今成小学校や川越市のすごいところなどについて、機会を見つけ伝えるように努めています。

今後、社会の高度情報化とともにグローバル化が加速度的に進むと言われていています。その中を生き抜く子どもたちにとって、先人の偉業や自分が暮らす国や地域のよさをしっかりと知っていることは、一層大切になると考えています。

来る3月22日には、立派に成長した55名の6年生の皆さんが今成小学校を巣立っていかれます。卒業生の皆さんが、これからも今成小学校を大切に思い、ふるさと川越を誇りとし、さらに広く世界にも目を向け、自分の夢や希望に向かって進まれることを心から願っています。

結びに、地域や保護者の皆様には、今年度も数多くのあたたかいご支援を賜りました。ここに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

ほめて認めて、叱って諭し、また、ほめて伸ばす